



クローズアップ  
CLOSE UP

梅雨の楽しみ華やかに

荻窪公園で6月17日、アジサイまつりを開催。青や紫、白などさまざまな色のアジサイが咲き誇る中、だんべえ踊りの披露やスタンプラリーが行われ、たくさんの人でにぎわいました。また、6月上旬はホテルがたくさん舞う夜も。訪れた人々を魅了しました。



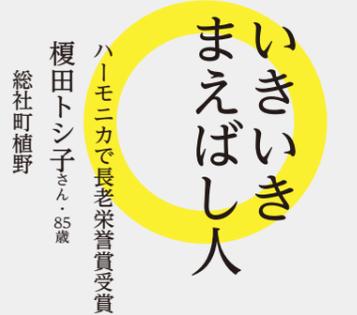
いにしへの文化を体験

6月10日、大室公園で大室古墳イベントを開催しました。園内4つの前方後円墳は国指定の史跡。訪れた人は古墳の語り部による解説やスタンプラリーを楽しみながら歩きました。まが玉作りや古代衣装の着用などもあり、古墳時代を満喫した1日となりました。



おいしいピザに頼緩む

6月9日と10日、中央イベント広場でキングオブピッツァを開催。8店舗が出場し、各店自慢のピザで味を競い合いました。優勝は前橋産ブランド豚を使ったピザで臨んだ埼玉県産のラナーヴェ。どの店舗も行列ができ、訪れた人は出来たてのピザを楽しみました。



演奏することが健康の秘訣

「50代の頃に総社公民館で社交ダンスをやっていました。当時、公民館の人から新しく始まるハーマモニカ教室の誘いを受けたのがきっかけで、夫と一緒に始めて、今年で30年を迎えました」  
ハーマモニカの普及や発展に長きにわたって貢献したことや、リーダーとして活動をけん引したことが認められ、日本ハーマモニカ芸術協会の長老栄誉賞を受賞した榎田さん。  
「ハーマモニカが健康にいいの、風邪で教室を休んだことは一度もなかったです。音を出すことがストレス発散になったので、夫婦げんかも全くありませんでした」  
榎田さんは通常のハーマモニカよりも長いコードハーマモニカを使って、伴奏を担当する。バスハーマモニカを吹く夫と織り成すリズムは息ぴったりだと定評がある。  
「コードハーマモニカは息を吹き込む穴が多くて覚えるのが大変。でも、その難しさが魅力でもあって。練習して、できるようになるのが本当に楽しいんです」  
ハーマモニカ以外にも、グラウンドゴルフや日本舞踊をするなど多趣味。そこで知り合った仲間と支え合っている。  
「これからもみんなと一緒に目標に挑み続ける。」



荻原朔美 河畔奇譚 vol.8 圓前橋文学館 ☎027-235-8011

荻原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。今回は若い芽のポエム20年記念トークでの、本市出身のファンタジー作家・阿部智里さんとの対談(一部)の後編をお届けします。  
●作家としての歩みと今後  
萩原(以下H) 大学3年、史上最年少で松本清張賞を受賞し、作家の道に。デビュー当時から「八咫鳥」のシリーズ化は考えていたの。  
阿部(以下A) 考えていました。ただ、それが実現できるかは不明だったので、1・2巻は単体でも読めるように書きました。編集さんは応援してくれていましたが、商業出版で新人が続くものを書けるかどうかは運ですから。  
H 編集者と作家は共同で小説を作るとい感じですかね。  
A そうですね。編集さんの

サポートののおかげで、学業と執筆活動、二足のわらじの生活を両立できました。  
H シリーズの中で順番や主役が変わりますよね。  
A 私の中では歴史の流れのような全体像が見えているので、実は、根底にあるものは変わっていません。  
H 全部書き上げたら、壮大な長編になるね。これからはどんな作品を書きますか。  
A 問いかけのある作品を。私には世界がこう見えているけれど、あなたはどうか考えますか、と、多様な価値観を殺さず、積極的に生かした作品を書いていきたいです。(了)

対談では終始笑顔が



「八咫鳥」シリーズの世界